

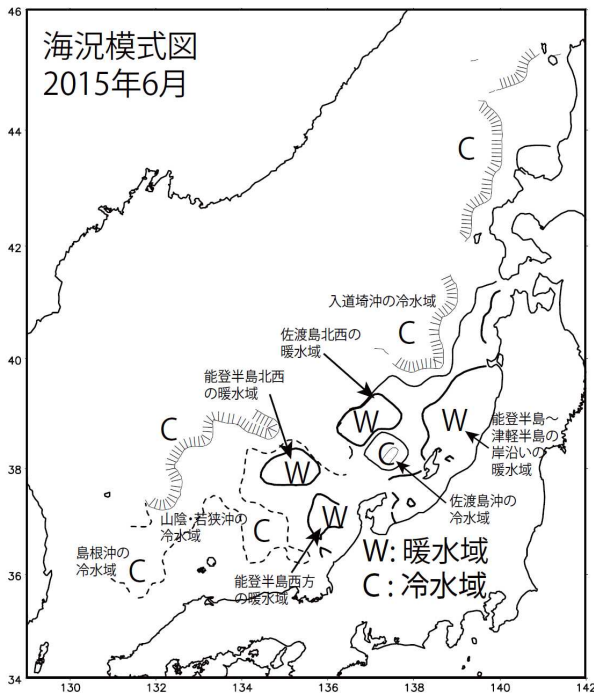


平成27年度 第2回 日本海海況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産総合研究センター
日本海区水産研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(平成27年7月中旬～9月)のポイント

- ・対馬暖流域の表面水温は、“やや高め”で経過する。
- ・対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部では“平年並み”、北部では“やや高め”で経過する。



2015年7月中旬～9月の海況

- 能登半島西方の暖水域は、北東へ移動し消滅。
- 能登半島北西の暖水域は、東へ移動して能登半島北方に分布。
- 佐渡島北西の暖水域は、北東へ移動した後、能登半島～津軽半島の岸沿いの暖水域と合体。
- 能登半島～津軽半島の岸沿いの暖水域は、勢力を縮小しつつ停滞。
- 島根沖の冷水域の張り出しは、平年並み。
- 山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、平年並み。
- 佐渡島沖の冷水域の張り出しは、やや弱め。
- 入道埼沖の冷水域の張り出しは、やや弱め。

問い合わせ先

国立研究開発法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所業務推進部

担当：檜山、江連

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/>

平成27年度 第2回 日本海海況予報

1. 今後の見通し（2015年7月中旬～9月）

- (1) 能登半島西方の暖水域は、北東へ移動し消滅する。能登半島北西の暖水域は、東へ移動して能登半島北方に分布する。佐渡島北西の暖水域は、北東へ移動した後、能登半島～津軽半島の岸沿いの暖水域と合体する。能登半島～津軽半島の岸沿いの暖水域は、勢力を縮小しつつ停滞する。
- (2) 島根沖の冷水域の張り出しは、平年並みで経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、平年並みで経過する。佐渡島沖の冷水域の張り出しは、やや弱めで経過する。入道埼沖の冷水域の張り出しは、やや弱めで経過する。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“やや高め”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部では平年並み、北部では“やや高め”で経過する。

2. 経過（2015年3月～5月）

- (1) 3月に能登半島西方で見られた暖水域は5月にかけて東進しつつ勢力を縮小し、5月には能登半島北方へ移動。3月に隠岐諸島南東に見られた暖水域は5月まで停滞。3月に佐渡島西方で見られた暖水域は、東進した後4月に佐渡島東方～津軽半島の岸沿いの暖水域と合体。3月に佐渡島東方～津軽半島の岸沿いに分布した暖水域は5月には能登半島～津軽半島に分布を拡大。
- (2) 島根沖の冷水域は、3月は規模はやや小さく接岸状況は平年並み、4月は規模はやや大きくやや接岸、5月は規模・接岸状況とも平年並み。山陰・若狭沖の冷水域は、3月は規模はやや小さく接岸状況は平年並み、4月は規模・接岸状況とも平年並み、5月は規模は平年並みでやや離岸。佐渡島沖の冷水域は、3月から5月にかけて、規模・接岸状況とも平年並み。入道埼沖の冷水域は、3月、4月は規模・接岸状況とも平年並み、5月は規模はやや小さくやや離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温
3月は、隠岐諸島南西の沿岸域で“やや低め”～“かなり低め”、佐渡島北西及び津軽半島西方で“やや高め”～“かなり高め”以外は、概ね平年並み。4月は、隠岐諸島東方及び能登半島西方で“やや高め”～“かなり高め”、佐渡島北西及び津軽半島西方で“かなり低め”～“はなはだ低め”、北海道西方で“かなり高め”～“はなはだ高め”以外は概ね平年並み。5月は、隠岐東方から佐渡島にかけての沖合で平年並み以外は“かなり高め”～“はなはだ高め”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、3月は日本海北部・西部ともに“平年並み”。

3. 現況（2015年6月）

- (1) 暖水域は、能登半島西方、能登半島北西、佐渡島北西、能登半島～津軽半島の岸沿いに分布。
- (2) 島根沖の冷水域は、規模は平年並みでやや接岸。山陰・若狭沖と佐渡沖の冷水域は、規模・接岸状況とも平年並み。入道埼沖の冷水域は、やや小さくやや離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、北海道西方で平年並み以外は、全体的に“やや高め”～“かなり高め”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部は“平年並み”、北部は“やや高め”。

(註) 引用符(“ ”)で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

- | | |
|--------------|--------------------------------|
| “はなはだ高め(低め)” | : 約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ(低さ) |
| “かなり高め(低め)” | : 約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ(低さ) |
| “やや高め(低め)” | : 約4年に1回の出現確率である1℃程度の高さ(低さ) |
| “平年並み” | : 約2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温 |

参 画 機 関

| | |
|---------------------------------------|--|
| 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場 | 福井県水産試験場 |
| 地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所 | 京都府農林水産技術センター 海洋センター |
| 秋田県水産振興センター | 兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター |
| 山形県水産試験場 | 鳥取県水産試験場 |
| 新潟県水産海洋研究所 | 島根県水産技術センター |
| 富山県農林水産総合技術センター 水産研究所 | 山口県水産研究センター |
| 石川県水産総合センター | 一般社団法人漁業情報サービスセンター (取りまとめ機関) 国立研究開発法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所 |